

平成 26 年度第 3 回奈良市総合計画審議会第 1 部会会議録

開催日時	平成 27 年 2 月 18 日（水）午前 9 時 30 分から午前 11 時 05 分まで	
開催場所	奈良市役所北棟 6 階第 21 会議室	
議 題	1 奈良市第 4 次総合計画後期基本計画各論（案）について	
出席者	委 員	埋橋部会長、岡田委員、佐久間委員、藤本委員、松田委員 【計 5 人出席】
	事務局	総合計画策定委員会委員及び関係課長、総合政策課職員
開催形態	公開（傍聴人なし）	
担当課	総合政策部総合政策課	
議事の内容		
1 奈良市第 4 次総合計画後期基本計画各論（案）について 事務局より、資料 1、資料 2 について説明を行った。		
〔質疑・意見の要旨〕		
埋橋部会長	<p>ありがとうございました。前回の会議に引き続いて、後期基本計画の各論についてご意見を頂戴したいと思います。前回、委員の皆様からいただきましたご意見をもとに、市の各部局で再検討をしていただきました。説明がありましたように、資料 2 にその対応状況が記載されていますので、そちらを中心に改めて議論をいただきたいと思います。また、事前にいただいたご意見もございましたので、そちらも含めてご発言いただきたいと思います。今ご意見をいただいている順番に沿って委員の方に伺いたいと思います。</p> <p>一番最初のご意見は、佐久間委員のほうから、1 ページの基本施策 2-01 学校教育について、基本施策において、現状と課題の項目の対応関係を明確にというご意見がありますが、ご説明をお願いいたします。</p>	
佐久間委員	<p>対応関係といいますのは、要するに現状を見て、対応する課題が即わかるようなという意味です。一例としては、現状の一番下に「学校保健検診器具等の老朽化が進んでいます」。これは非常にわかりやすいので、多少順番が変わってもいいのですが、これが一番下に来ているならば、保護者の就労云々よりも、その後に「学校保健検診器具等の整備を行います」というのが課題のところに来たほうがいいのではないかとということです。</p> <p>必ずしも現状と課題が 1 対 1 に対応する必要はないですし、瑣末なことかも知れませんが、こういったところも配慮していただけたらと思っています。</p>	
埋橋部会長	これは 1 ページのところですが、1 ページにかかわらず、全体的	

にもう一度この順番を見直したほうがよいというご意見ですね。

佐久間委員 要は並べ方の問題なのですけれども、本当は現状から線が引かれて、それに対する課題につながるというのが一番わかりやすいのですが、このように現状と課題とに分かれていますので、そしたらその順番に応じて課題のところも並べ替えたらということです。

埋橋部会長 現状から課題への流れがよりよくわかるようにということですね。この点につきましては、全般についての見直しの中で事務局などで対応していただけたと思いますが、もしこの審議の途中で、これは前のほうがいいのではないかというご意見がありましたら、またその都度お教えいただければありがたいと思います。

次に松田委員から3ページの2-01-01についてのご意見をいただいています。

松田委員 ここの変更理由を最初読ませていただいたときに、英語教育と世界遺産学習が別個のものとして、独立して捉えられているような印象を持ったので、自分の提出した資料の2点目のことを書かせていただきました。

ここでは2点指摘させていただいておまして、1点目がかぎ括弧の中の「語れる子どもを育成します」という「語れる」というのがちょっとよくわからないということです。どちらかというと、語ることが重要というよりは、自分の地域の特性や良さを生かせるようにしていくということが非常に重要だと思っておりますので、教育政策として掲げるのであれば、ぜひとも「語れる」という言葉よりも、「生かせる」とか、「それを自分自身のアイデンティティの形成に生かしていく」とか、そういった文言になると、よりよいのではないかと思います。

2点目なのですけれども、先ほど申し上げた変更理由がピンと来なかったのと、もともとの事項2も結構素敵な文言だなと思ったのですが、あえて変更した理由を改めてお伺いできればと思うのですけれども。

学校教育部長 まず1点目ですが、松田委員のご指摘のとおり、「語れる」ということが目的ではございません。アイデンティティの形成、そして、将来グローバルな社会で活躍していく際に、それが土台の部分、根っこの部分にしっかりとつながっていくものになることを願っているものです。

「奈良で学んだことを誇らしげに語れる子を育成します」という

文言は、これまで市で取り組んできた教育の中で目指す子ども像の1つとして、全ての学校・園や職員、地域の方、保護者などにしっかりアピールし続けてきたものなのです。文言だけを読み取っていくと、ご指摘のとおりの中身にも受け取られる可能性があるのですが、これまでいろいろな場で説明をしてきており、アピールをし続けてきている一文となっているということでもありまして、この言葉についてはあえて変更をせずに、委員ご指摘の内容を踏まえながら、誤解を得ることのないように、啓発やさまざまな発信をしていきたいと思っております。

松田委員 はい、わかりました。

学校教育部長 それから、英語教育と、その変更の理由ということですが、英語教育と世界遺産学習を独立させるのではなく、一体として考えたものにしていくことについては、ご指摘のとおりの中身だと受けとめておるところでございます。変更理由には、それも踏まえながらの記述をしたつもりではあったのですが、少し不十分な点がありました。中身としてはご指摘のとおりでございます。

松田委員 そうすると、環境教育や国際理解教育、世界遺産学習は継続して行われるということですね。ですが、前期計画の施策の展開方向にあった国際理解教育や環境教育、持続可能な社会の担い手を育成するという文言はなくなっているということですね。

教育政策課長 〇〇教育という言い方はたくさんあります。前期では、「環境教育や国際理解教育など」と、「など」という形でくくっているのですが、今回、〇〇教育というものをあえて出さずに、奈良市が特徴的に「奈良で学んだことを誇らしげに語れる子」という、この文言で大きくくくったというようにご理解していただけたらありがたいと思います。

この言葉をあえて使ったのは、平成14年に3つのアクションという形で始まった教育改革が、今の教育の源流になると思います。21年に教育ビジョンをつくらせてもらったのですが、そのときに奈良らしい教育と地域全体で子どもを育てるというような、新しい2つのアクションを入れて、全部で5つのアクションに取り組んでいこうと。

そのときに、「奈良らしい教育」にはどのようなキャッチフレーズがいいだろうといろいろ考えたときに、「奈良で学んだことを誇らしげに語れる子」という言葉を選ばせてもらったということなの

です。その中で、アイデンティティを培っていくことを、1つの大きな土台にしていこうということだったのです。

この世界遺産学習については、委員もご承知のように、世界遺産学習全国サミットも本市でさせてもらいながら、全国的な連絡協議会も本市が立ち上げて、日本全国でやっっていこうと呼びかけています。その中で、環境教育や国際理解教育について、賛同しているいろんな自治体が入って、世界遺産学習という名のもとに取り組んで行っているということで、奈良市はそんなところも含んで、「奈良で学んだことを誇らしげに語れる子」という形で取り組んでいっていますので、この言葉でくくらせてもらいました。決して環境教育や国際理解教育がなくなってしまうということではないとご理解いただければありがたいと思っております。

松田委員

わかりました。ありがとうございます。私は、どちらかというと言文以上に中身がすごく重要だと思いますので、そういった思いで計画されているということであれば、非常に頼もしく思うとともに、ぜひとも私の希望としては、この世界遺産学習を軸に、国際理解教育や環境教育、ESDを含めて考えていただくと、すごくいいのではないかと思います。

今までいろんな書類を拝見させていただくと、独立したものになっていて、つながりがないために、結構ばらばらと成果が上がりにくい状況になってきているのかなと思います。実は、これらの国際理解教育とか環境教育というのは、世界遺産学習を軸に構築していくと、非常に強い柱になっていくと思うのですね。

私は留学して気づいたのでですけど、留学したり、海外の人に触れたりして、初めて日本のよさや自分が育った地域のよさに気づくことが多くありました。なので、今後いろんな教育を推奨していく上で、かつ奈良らしい特色のある教育ということを考えていきますと、ぜひともこの中核に自分たちが持っている強みを軸に置きながら、これをどう世界に発信していくのか、日本全国に発信していくのか、それでどう世界に貢献していくのかということを考えていただくと、すごくいいかなと思うとともに、先日、別の会議で藤沢久美さんと一緒にさせていただきましたが、今、世界は奈良の持っている文化遺産を1つの教材としてリーダーシップを学んでいたり、持続的な社会はどういったものなのだろうか考える議論が始まっておりますので、その軸の中で、それは経済界だけで起こる動きではなくて、教育界にも起こるようなムーブメントにさせていただきたいと期待をしております。

教育政策課
長

ありがとうございます。松田委員の2つ目のご指摘の英語教育と世界遺産学習を独立させるのではなく、統合していくというの、今おっしゃっていただいたような意図なのかなと思います。変更理由にそういった意図も記述したつもりでしたけども、説明不足でございました。

世界遺産に限らず、例えばICTについても、ICTの会議を我々は持っているのですが、その中で、奈良は世界遺産があるからICTもそういうところと絡めながら活用すればよいというようなご意見等もいただいております。いろいろな会議の中で、やっぱり奈良の特色を打ち出しながら絡めていくんだというご意見をいただいておりますので、今委員おっしゃっていただいたことを含めて取り組んでいけたらと思います。

埋橋部会長

では、引き続きまして、同じく松田委員のほうからいただいたご意見で、資料2の3ページに「アウトプット型の」と書かれております。このことについてお願いいたします。

松田委員

ちょっと細かく書いてしまったのですが、言わんとしていることは、ICTの活用目的というのは、アウトプット型の授業を実現するためだけではありません。逆に言うと、ICTを活用したからといって、アウトプット型の授業が実現できるわけではないですし、ICTを活用しなかったとしても、アウトプット型の授業は構築できます。その中でも、課題解決能力であったりコミュニケーション能力であったり、他者の多様な価値観を受容する力は育成できると思っております。

その文脈で申し上げますと、ここの「ICT教育を推進します」という項目の使い方というか、どうしても「アウトプット型の教育」では、ICTの活用やキャリア教育なども含めて、いろいろこの項目でごちゃごちゃになっている気がしています。

なので、もう少し項目の整理が必要ではないでしょうか。恐らく中身に入っているものに間違っているものは1つもないと思うのですが、例えば課題解決能力やコミュニケーション能力を育むための教室を運営していくという軸があって、その中の施策があるとか、もしくは教員の多忙化であったり、子どもの学習意欲であったり学力を担保するためにICTを活用していくんだということにしないと、多くの自治体で失敗しているケースは、とりあえずICTを導入して、うまく生かされずに、倉庫に眠ってしまうということが多くございますので、もう少し、そうならないような項目の整理の仕方というのを考えられたほうがいいのではないかと感

じました。

ただ、インプットがなければアウトプットもありません。そこは
もちろん軽視しているとは思わないのですが、どうしても教育会議
の中ではアウトプット型と言われ始めると、既存の学習指導要領の
中でどうやってそれをやるのだろうかだとか、もしくはすごくイン
プットを軽視するような、指導要領を否定するような議論があるの
ですが、私はそうではないと思っています。指導要領に基づいてイン
プットをしっかりする中でもアウトプット型の授業、コミュニケー
ション能力を育む授業というのはできると思いますので、そうい
ったところを多分意識はされていると思うのですけれども、もう少
し文言であらわれてくると、どの先生も、どの市民の方が見ても理
解してもらえるのかなと思っています。

学校教育部
長

ありがとうございます。ご指摘をいただいておりますことは、全
くそのとおりに思っております。アウトプット型の授業を、学校そ
れぞれがしっかりと啓発していったら、そこの中に位置づけていくと
いうことは、子どもたち自身の学びの姿を、しっかりと見届けてい
くということを考えても、大切なことでもあると思っております。
ご指摘をいただいた点をしっかりと考えながら、このアウトプット
型の授業というものを定着をさせていきたいと考えているところ
でございます。

アウトプット型の授業というものは、ご指摘のとおり、ICTの
みを活用することによって実現できるものではなく、全ての授業の
中でそういうことを意図しながら、もちろんインプットをしっかり
とした上で、どのようにアウトプットに向けていくかという、そこ
の連動性を持った上で位置づけていかなければならないと思っ
ておりますし、先ほど言いましたように、ICTの活用ということの
中でのみ行うものではないというのは、ご指摘いただいた趣旨に大
変同意できるところでございます。

あえてこの項目に書いたところなのではございますけれども、ICT
を活用した教育を進めていくということについては、市が持ってお
ります重点施策の「NARA NEXT4」の中にも挙げられているものでも
あるということでございまして、活用することで学校の現場に今浸
透していったいない新しい学び方、または教師の指導を大きく変え
ていくためのきっかけがそこにはあるものだとも思っております。
そういう教員の意識づけや、学びの転換ということをしっか
りと意識していくためにも、あえてICTを活用した授業の中でこ
のことは行っていくんだというように入れ込んだということでご
ざいます。

ですが、最初にも言いましたけれども、ICTだけではなく、全ての授業の中でアウトプット型の授業を行っていくことができるように指導は継続して行っていきたいと思っております。

松田委員

ありがとうございます。既に計画されていることかもしれませんが、特に今の項目というのは、③の教職員の研修の充実にかなりかかわってくるころだと思います。同じコンセプトでICTを入れている自治体、学校はたくさんあるわけですが、基本的にテクノロジーを今までの黒板と同じように使っているわけですね。準備してきたプリントを投影しているだけとか、そういった形で終わっているケースが非常に多くありますので、あまりICTにとらわれず、どちらかというところを生かす教員の資質、能力の開発に重点を置きながら、かつICTもうまく組み込んで、そこを掛け算で相乗効果が生めるようにしていかないと、結構リスクというか、こういったものを導入したら、「ほら、だめだったじゃない」というリバウンドが起こる可能性もあります。そうならないように、あわせて中身のところや、それを使う人の育成のところ、先ほどのコンセプトを重点的に入れながらやっていく必要があるのではないかと思っておりますので、よろしく願いいたします。

学校教育部長

ありがとうございます。③の教職員の研修の充実という点につきましても、教員一人一人の資質をしっかり高めていって、どのような学習活動の場面にICTを活用するからこそ効果が得られるという手法をその中に入れ込んでいかないと、紙であっても一緒ではないかというものであれば、何にもなっていないということもあります。

そういうことから、文言を変更させていただいた中には、どのような場面でどのように使うためには、教員一人一人がどのような資質を身につけておく必要があるのかということ、一人一人が持っている資質の状況に応じた研修内容の提供をどのようにすればいいのかということもあわせながら、一人一人に応じた支援体制を確立しますと、そのような思いも含めているということでございます。

埋橋部会長

このICTの活用につきまして、ほかの委員の方からご意見がありましたらお願いいたします。

岡田委員

特色ある教育ということで、随分前から世界遺産学習とICTとALTを三本柱としてやっておられるのですが、個人的には

英語教育もICTもツールのようなものだと思っています。相手の情報を得るためや伝えるためのツールが、英語であったりICTであったりするのかなと思っています。「奈良で学んだことを誇らしげに語れる子ども」ということでいえば、やはり奈良で学んだことで、自分がそこに誇りを持つことと、それを語れることということですが、誇りを持つというところが教育内容になってくる。そのために必要な道具がICTであったり英語教育であったりするのかなと思うので、何となく比重に違和感があるという気はします。

佐久間委員 私もちよっと疑問に思ったところでもあったのですが、あくまでもICTというのはツールであって、むしろ十分にそれを活用できるような指導のほうが問題なのかなと思います。特に現状では、このICTというのが具体的に何を意味するのかによっては、子どもたちのほうがはるかに教員よりも使っているので、むしろリテラシー的なものの徹底などが必要ではないかと思っています。

アウトプット型、特に活用の仕方によってはインプットばかりが盛んになって、変にゆがんだ形でのアウトプットが増えているので、そういった意味での本当にリテラシー的な教育というのが必要だと思っています。

埋橋部会長 ありがとうございます。ICTと言うと、とかく小学校以上とか、そういうふうなことがイメージされるのですが、藤本委員、いかがでしょうか。

藤本委員 私の園は、英語指導を週3回、2歳児以上に行っているのですが、そういうものを取り入れた保育園も最近たくさん出てきていると聞いております。

私はどちらかというところ、保育園においての子どもらしさというのが基本理念にありますので、そういうものを取り入れてどうこうしたくないなとは思っています。就学前までは、今しかできない子どもたちの自由な、楽しい、お散歩して花を見て感激できるような、そういう保育をしたいなという、私はその気持ちでやっていますけれども、現に取り入れていることは確かですし、子どもたちは私たち以上に感覚でやってしまうので、そういった中でどちらかとも言えませんが。

埋橋部会長 保育園なり幼稚園なりのことですが、就学前におきましてはICTという機器そのものに対する準備というよりも、これも先ほどの議論と通じてくるかと思うのですが、ICTというのはいわ

ばツールの部分が大きくて、それをどう生かすかという部分が大事であるということ、委員の方それぞれおっしゃっているかと思うのですが、藤本委員のお立場も、そういうツールに至る前の子どもの人間性なり、そういうことの根っこをつくるのが就学前の部分であろうと。

そういう意味では、ICTという機器と、それを活用してのコミュニケーションなり何なり、もしくは知識もインプットするときの心のありようというか、生き生きした気持ちとか感性とか、就学前にそういうものを十分培うことで、それ以後の初等教育、中等教育につながっていくのなのかなというふうに考えます。

これは大人の苦手意識が先立つのかもしれないのですが、とにかく、どうやって使うかということに目がいきがちですが、そうではなくて、ICTを使って何をという部分で、これもまた先ほどの世界遺産を軸としてとか、そういうところともつながって考えられるのではないかと思います。

続きまして、佐久間委員のほうから市立一条高校についてということをお願いいたします。

佐久間委員 要は具体的な目標を掲げることの重要性ですね、こういったのに特にこだわったわけです。

保護者への説明責任というのはちょっと腰の引けた表現かなと思っと思っています。あくまでも保護者だけではなくて、市民も全て含まれるわけですから、恐らく学校評議員には市民も含まれているのではないかと思いますので、そういった面での意見も、ぜひいざ機会がありましたら、報告書を見させていただきたいなと思っっています。

埋橋部会長 佐久間委員のご意見としては、全国高校総体出場種目数という指標を削除されたことに対するご異議が前回ありましたけれども、このようにできるだけわかりやすく指標を挙げることの意義ということ踏まえた上で、アンケート等の項目について工夫をいただきたいというご意見と思っいます。

教育政策課長 対応状況等のところでも書かせていただきましたが、委員がおっしゃるように、数値目標というのは大きな励みになると思っいます。総体の数値目標は抜いたということなのでございますけれども、ご指摘いただっているように、総体にこだわらず、文化などでもいいので、さまざまな活躍を指標として挙げてほしいという趣旨については、大変よく理解できます。ただ、あえてそのような個々の具体的

な数値目標ではなくて、よかったという満足度を、高校については施策の目標の評価とさせていただきます。

ただ、教育の中で具体的な数値目標に向かって取り組んでいくということは大変重要なことですし、効果もあると思いますので、委員のご指摘については日々の教育活動の中で明確にしながら取り組んでいくことができるようにしていきたいと思います。

それから、学校評議員の報告等については、この評議員制度自体が学校長に意見を言うというものでございますけれども、市民の意思も含めてという、いわゆる第三者評価であったり、外部評価であったりという視点で一条高校を評価していくことについては、これは大変重要なお指摘であると思います。

まだ正式には決まっていないのですが、来年度、一条高校のほうはスーパー・グローバル・ハイスクールというものに応募しております。今年度はアソシエイトという、準ずる学校という形で取り組んできたわけなのですが、来年度、そのスーパー・グローバル・ハイスクールに採択されるようなことになりましたら、これに取り組む中で第三者評価を行っていかねばならないようになっておりますので、委員のご指摘等の趣旨も踏まえて、そういうところで生かしていきたいと思います。

佐久間委員 ありがとうございます。特に今お聞きましたスーパー・グローバル・ハイスクールの件ですが、非常に関心が高いので、世界遺産との関係も含め、この発信型とも関連づけて、ぜひ一条高校の教育が画期的なものになるように期待しています。

学校教育部長 ありがとうございます。しっかりと進めていきたいというふうに思います。よろしくお願いします。

埋橋部会長 先ほどは指標に関するものでしたけども、引き続きまして、この段の下ですね。同じく一条高校の教育理念、特色、位置づけに応じた指標を追加してはどうかというご意見に通じるところですが、佐久間委員ご意見を頂戴できればと思います。

佐久間委員 一条高校の教育理念というものがどんなものかと思ってホームページを見たのですが、特に理念としてはうたっていないように思われます。ビジョンとして毎年変わるような形で出ているのかなと思って、ちょっと見つけづらかったのですが、

学科といいますか、専攻に記されているような「国際交流や大学・企業・国際機関との連携を通してグローバル社会で活躍できる

視野の広い人材」というのは、まさにどこも狙っているわけですし、他校との差異化を図る上でも国際の関係の指標なども、いずれ機会がありましたらお示しいただけたらと思っています。

埋橋部会長 ありがとうございました。引き続きまして、資料2の順番の流れで、少し飛びますが、これも佐久間委員から頂戴したご意見で、青少年の健全育成に関連して。
資料1の方の11ページです。

佐久間委員 ここの現状での問題の重要性からいったら、本当にこの表現といえますか、「子どもたちが異年齢集団の中で自尊感情や社会性、人との付き合い方などを学ぶ機会を提供するとともに、青少年の健全育成に関わるボランティア活動などへの参加を更に支援する必要があります」というのは、どこにも共通するような内容でして、特に暴力行為やいじめというような問題に対する現状を受けての課題としては少し弱いのではないかという感じを受けたのですけれども、いかがでしょうか。

学校教育部長 佐久間委員からご質問いただいておりますのは、現状の部分で児童・生徒の暴力行為やいじめなどの問題行動は依然として存在しているという現状はあるものの、そこに対応する課題というものの捉え方が低いのではないかというご指摘だと受けとめます。
おっしゃっていただいているとおりがなというふうに思いますので、この課題の中に1つ項目を追加というふうに思っています。暴力行為やいじめなどの問題行動に対応するために、例えば相談体制、初期対応をしっかりとっていくという意味での相談体制を充実ということであったり、それから初期の対応に向けて学校訪問であったり、また対応方法について学校を支援するために専門家等々も集めながら検討を進める場ということを設けながら、学校をさらに支援する体制というのを整えていく必要があるということを含んだ課題認識の1項を入れていきたいと思っております。

佐久間委員 ありがとうございました。非常に適切な表現で、こちらの意図したまさにそのとおりですので、よろしく願いいたします。

埋橋部会長 ありがとうございました。では、これまで事前に委員から頂戴したご意見の項目に沿って進めてまいりましたが、いま一度、前回の会議を踏まえての改善をもう一度見直すということで、資料2の1ページ、こちらのほうから進めていきたいと思っております。

該当箇所につきまして、意見としては、特色のある教育について、奈良市の特色ということがポイントになった意見なのですが、これについてはこのように対応されたということですが、このところに関して。

佐久間委員 この対応状況、一番右の欄、現状の事項5で、「時代の変化に適応し、様々な教育課題に対応できる専門知識や指導力」、これはわかるのですが、「人間性を備えた教職員の育成が」については、どうしても私も教員として引っかけます。いかにも人間性が欠けている、足りないというふうにもとれますし、指導力というところにそもそも全て含んでいるのではないかと思うのです。あえて人間性と捉える必要があるのでしょうか。

松田委員 人間性ってすぐに育成できるものでもないと思いますので、私もちょっと同意で、「人間性を備えた教員の育成」とありますが、ではどうやって人間性を備えた教員を育成するのか。なかなかカリキュラムにも落とし込みづらいですし、成果をはかりづらい部分かと思えますので、私も「人間性」は逆に、あえて入れなくてもいいのではないかと思います。専門知識や指導力はもちろん育成できるものでございますので、私も佐久間委員の意見には同意いたします。

埋橋部会長 ありがとうございます。参考とさせていただきたいと思います。では、次に進めさせていただきます。

2ページは、先ほど松田委員から頂戴した意見を中心に検討してまいりましたが、もう一度見直しまして、何かここでお気づきの点がありましたら、委員からご指摘いただきたいと思います。

もしまた何かありましたら。では、次に進みます。

3ページですね。ICTの件で、先ほど十分ご説明もいただけたところかと思えます。

では、次に4ページの「教職員の研修の充実」という項目で、先ほどのここでまた人間性ということともかかわってくる項目かと思えます。もし部局のほうで何かつけ加える説明がありましたら、お願いいたします。

教育政策課長 教員研修については、本市のほうでも昨年末に実態調査等もしながら、その中身について見直しているところです。どのような形でやっていくのがいいのかということも含めて、現在見直してはいるのですが、研修の内容については、教員が変わることによって子どもの学びが変わった、子どもの学力も伸びるし、これから社

会に必要な力も伸ばしていけるものになっていかなければならないと思いながら、現在取り組んでいきたいと考えているところです。

佐久間委員 職務研修、管理職研修、非常に重要だと思うのですが、変更理由のところでも少し触れられていますが、問題として非常に時間を取りにくいような状況ですよね。そういったところも十分考慮して、余裕を持って研修を受けられるような体制をぜひ検討していただきたいと思います。

学校教育部長 教員一人一人というあたりが、センターのほうにいつも出向いて、そこで研修しなければならないという、そういう研修の場の設け方だけではなくて、反対にこちらのほうから学校に出向いて、一人一人に対応できるような研修の場を設けていったりということも含めながら、研修のあり方というものをしっかりと見直した体制づくりをしていきたいと思っております。

松田委員 ここは恐らく教職員の質についての項目だと思うのですが、教員の質というのは、恐らく研修と、あとはやはり入り口の段階ですよね。どういう人を採用するのかということもすごく重要な項目で、なかなか採用の改革、もしくは推進していくような取り組みというのが、こういった資料で見られないと思っています。

特に今後、時代に合った教員の質の担保ということを考えると、もしかしたら研修以上に採用の改革を柔軟に行っていくほうが効果があるのではないかと私は感じております。もちろん、だからといって研修をないがしろにするということではなく、やはり求める質があって、入り口と、そして入ってからの掛け算で質というのは決まるかと思しますので、実は入り口の部分の質が高ければ高いほど研修の中身は生きてくるというわけでもございますので、このあたりの文言に入っていない理由があるのであれば、それもお伺いしたいですし、もしくは取り組みとして現在進めようとされていることがあるのであれば、ぜひともご説明いただきたいと思っております。

教育政策課長 ありがとうございます。おっしゃるように、教員をどうしていくのかということについて、採用と研修は大きなファクターかと思っております。研修については今申したとおりなのですが、採用については、残念ながら奈良市に人事権がないということが一番大きなネックであると思っております。市長は、中核市に人事権をとい

うことで、国のほうに再三要請をしていますので、人事権がおりてきたときには、また違った形になっていけるかと思えます。県に市から要請していくということももちろん大切でございますので、そのことについてはやっていかなければならないと思っています。

ただ一方で、市費講師につきましては奈良市で採用ですので、ここで多様な人材が採れるような試み等をしていくことはできるかと考えています。

それともう1点、採用と研修ということでしたが、もう1つは、大学と連携しながら、学生を教員に養成していくときに学校現場がどう協力できるのかということも、1つ大きなポイントになるかと思えます。現在、教育大学等も含めて、いろいろな学校とスクールサポーターの連携をしています。来年度に向けては教育大学がそれを単位制にしてくれるという動きもありますので、大学との連携を含めて、質の高い教員が奈良市、奈良県に入ってこられるようなことにも取り組んでいけたらと考えております。

佐久間委員 確かに採用の時点も非常に重要な問題だと思います。私の経験から言いますと、むしろ伸び代のある人材をどうやって見つけられるかと言った点からも、入ってからの研修と申しますか、同僚、同じ学校での先輩の指導などを含めたものは、ものすごく効果があったと感じております。そういった意味では、広い意味での研修をぜひ充実させていただきたいと思っています。

埋橋部会長 ありがとうございます。採用や研修のことですが、次の5ページにございます外国語教育などのことがございますけれども、これは前回特に意見内容ということでは出ておりませんが、このページのことに関しまして委員のほうからご意見がありましたらお願いいたします。

佐久間委員 さっと読めば何の問題もないのですけれども、事項1に「アイデンティティを育み、誇りを持って」とありますが、このアイデンティティは何を表すのでしょうか。奈良市民としてどういったアイデンティティを持ってもらいたいのか。いろいろ意見の分かれる問題とは思いますが、あまりそれはこだわる必要はないのでしょうか。後半のほうを見ても、誇りを持って世界で活躍できる、世界遺産奈良の大きな目的からいっても、何か「奈良市民」とか、「奈良」の何か強調された方が、よりアイデンティティが生きてくるのかなと思うのですけれども、これはいかがでしょうか、単にアイデンティティよりもです。

教育政策課長	委員がおっしゃることは、アイデンティティだとなかなかはっきりしないので、むしろ奈良のアイデンティティとか、奈良市民のアイデンティティというような文言をつけ加えたらどうかというご指摘ですね。
佐久間委員	はい。
教育政策課長	我々の意図としましても、今委員がおっしゃったとおりですので、ここは検討させていただけたらと思います。
埋橋部会長	保護者や地域の立場から、もしご意見ありましたら、頂戴できたらと思います。
岡田委員	先ほどのところに戻ってしまうのですが、「人間性を備えた」という話をされていましたが、僕は最初に読んだときに全然違和感がなくて、言われてからそうなのかと思ってずっと考えていました。やはり保護者の立場からすれば、子どもの担任の先生なり、指導してくださる先生には、指導力や知識というのは絶対必要ですが、人間性というのは非常に気になる場所ですし、幾ら指導力があっても人間性が備わっていないと思う人には、というところがありますので、やはり求められているとは思いますが、それをどう育成するのかというのは難しいのかなと。書くべきなのかどうかはわからないのですが、やはり求められているのは、知識と人間性かという気はします。
埋橋部会長	ありがとうございます。なかなか困難な問題があるのですけれど、次の6ページからありますきめ細かな教育ということと、それから幼稚園の充実や特別支援教育にもかかわってくるのかと思いますが、委員のほうからご意見を頂戴できればと思います。
藤本委員	最近、こども園等々の中で、教育をしっかり入れなさいと言われてます。ここにはきめ細かな教育と書いていますがけれども、幼稚園と保育園との違いは多少あるでしょうけれども、保育園としての観点から見ますと、教育もさることながら、できる限り、基本はやはり人間形成であります。0～6歳の時期しか味わえない遊びを通じて感動を体験し、そして体力づくりなどを中心としてやってきたわけですが、果たしてきめ細かな教育というのは、そうした学校みたいに勉強を教えるのか、足し算、引き算を教えるのかという観点から見たら、私はそうではないのかなという気はしています。

当然、小学校に上がりますと、それこそきめ細かな教育が待っているわけですので、そういった子どもらしさというか、小学生には小学生らしさ、そして保育園、幼稚園の就学前の子どもたちにおいては、その子どもらしさというのを大切にしてあげたいというのが、私自身の今持っている気持ちです。それを中心に保育をさせていただいておりますけれども、何か最近、時勢がどうなのか知りませんけれども、全国で勉強が何位などとということよりも基本的な人間性、社会へ出てどういう人間になるのかというのが重要視されるのかなという気はしております。

埋橋部会長 ありがとうございました。部局のほうから何か追加の説明がもしあればお願いいたします。

子ども未来
部理事 ご意見を聞いておまして、今藤本委員もおっしゃいましたように、就学前につきましては、決して小学校の前倒しをするということではなくて、就学前しかできない体験を通しながら、子どもたちが小学校までつながるようなものを遊びを通しながらやっていくということで考えておりますので、決してきめ細かな教育ということで前倒しをしていこうということではございません。

また、世界遺産学習も出てまいりましたけれども、奈良市の場合にはいろんな環境を生かしながらということですので、唐招提寺や薬師寺という世界遺産の中を散歩しておられる。そこを日ごろ子どもたちが通っている中で、やはり子どもたちの原風景の中に奈良市らしさが育っていくというところがあると思います。

例えばよく遠足に出かけますのは、若草山へ行って、奈良の風景を一望にして、子どもたちがそのすばらしさを原風景として体験をしていく。その経験が、また小学校以降のまちの学びに生かされていくという、そのこと自身が奈良市らしい教育につながっていくということで、できる限り、就学前は体験や遊びを通しながら奈良に触れていくという教育をしていきたいと思っております。

そういう意味で、そうしたことも含めてカリキュラムをつくって、具体的に事例を挙げております。具体的な指標ということで何かここまでできればという形のを明確に示していくというのも1つなのですが、基本はそうした事例を挙げながら、子どもたちに何を体験させるかというところについて、教員自身が明確にそのことを理解しながら実践していけるような研修を進めていきたいということで、前回ご指摘をいただきましたけれども、カリキュラムの中に具体的な姿を示し、それを指導する教員自身が実践できるというところに、計画の中では力を入れていきたいと考えてい

ます。

埋橋部会長 就学前ということで少しつけ加えさせていただきますと、幼稚園などでも随分奈良の地ならではのということで、ソニーの科学プロジェクトというのがあるのですけれども、ちょっと名前が正確ではないのですが、お寺と協力したりとか、奈良の大仏さんなど季節に応じたカルタなどが飾ってあったりして、非常に地域の遺産というものを生かした保育がされているということをひしひしと感ずるところです。

続きまして、7、8ページのほうはいかがでしょう。

松田委員 確認でご質問させていただきたいんですけれども、奈良市は今、待機児童ゼロは掲げているのですか。掲げていて、それを何年までにゼロにするというのは。マニフェストを見ていると、2年でゼロにするというような文言があります。いつまでにゼロにするということを掲げていて、その中での対応状況は今どうなのですか。

子ども未来部理事 待機児童ゼロにつきましては、毎年ゼロを目指しながらやっているということでもあります。何年先ということではないのですけれども、待機児童に合わせながら保育所定員等をふやしてまいりましたが、また潜在的な待機児童が出てきて、今のところ、昨年の10月段階でもまだ131人待機児童がいるような状況になっております。27年度から5年間の「子ども・子育て支援事業計画」の中では、5年の計画期間の中で待機児童をなくしていきたいという具体的な計画を持っております。

ただ、意識としてはできる限り早くということがありますので、5年を待たずに、その中でできるだけ早く解決をしていきたいと思っております。

松田委員 奈良市のホームページにあるマニフェストには、2年以内に保育所待機児童をゼロにしますとなっているのですけれども。

子ども未来部理事 保育所の整備については、その形だと考えておまして、あと残りの部分については、今新しく地域型の保育もできてまいりますので、家庭的保育や小規模保育ということも始めさせていただきながら、その中で保育所の保育の足りない部分については、吸収をしていきたいということで取り組みを進めているところでございます。

松田委員 わかりました。ありがとうございます。

藤本委員 待機 131 名とおっしゃいましたが、これは第 1 希望、第 2 希望、第 3 希望とあるのですけれども、どの時点での待機ですか。

子ども未来
部理事 国に報告をしている部分ですので、第 1 希望だけで待っておられる方を除いてということです。要するに、ここでしかだめだというので待っておられる方を除く形です。

藤本委員 どこでもいいという方が 131。

子ども未来
部理事 はい。

岡田委員 3 つ目の項目のバンビーホームの件なのですけれども、来年度からバンビーホームの費用が上がると聞いてます。指標を利用児童数にするということなのですけど、どちらかというところ今までは安くしていただいていたところもあるのですけども、保護者の中の要望としては、費用よりも指導員さんの充実というか、研修内容とか、そういうところ辺に意識があって、利用料が上がってもバンビーの内容をよくしていただきたいというところが強いかなと思うのですけれども、指標を児童数にするのが適切なのでしょうか。

学校教育部
長 児童数がどのような状況にあるかということ、市民ニーズに対応した指標として設定していきたいということです。来年度から上がっていくということではありますけれども、施設を充実していくこと、それから安全性を充実していくこと。それから、保育時間ということについても、いわゆる延長保育への対応も可能にすることを、モデル園だけではなくて全市において行っていくということとともに、実施をしていくというのが、来年度の状況でございます。

岡田委員 待機児童はバンビーについてはいないわけですよ。なので、人が増えるというよりも、感覚的には 1 人の指導員当たりの見る子どもが減るとか、そういうもののほうがわかりやすいような気がするのですけれども。単純にバンビーに行っている子が増えたらいいのか減ったらいいのか、それもわからないですけども。

学校教育部
長 4 月 1 日からバンビーの条例が適用されることになっています。その中で定員や、1 人当たりの広さの基準も設けられてきますので、市内の園の状況を、指導員の配置や施設の面で、5 年間の猶予期間というものを設けながら、基準に沿ったものとなるように対応

していくということでございます。

埋橋部会長 ありがとうございます。ほかに委員のほうからご意見ありますでしょうか。

佐久間委員 資料1の21ページですけれども、そこでちょっと引っかけますのが、右側の変更理由の「子ども子育て支援新制度の開始に伴い、「奈良市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例」を制定し、放課後児童健全育成事業施設の最低基準を満たすよう整備していく」という、この最低基準です。

最低基準で本当にいいのかと。この計画の目標年度は2020年なのですけれども、さらにその先を見通して、私は10年先を見通して、あくまでも2020年が目標になっているけれども、25年までのプロセスの1つとして考えていかなければいけないのではないかと、いうことを最初の会議で言ったのですけれども、「最低基準を満たすよう」と、言いたいことはわかるのですけれども、表現を変えてほしいなと思います。

学校教育部長 ご指摘のとおりだと思います。これは基準を定めて、その基準に沿うようにということでございますので、「最低」というところを取るということで対応いたします。

埋橋部会長 では全体を通しまして。

佐久間委員 資料2の2ページ目、対応状況の一番下なのですが、「豊かな心を育む道徳教育や人権教育を推進します」とありますが、これは、「道徳教育や人権教育」という「や」でいいのでしょうか。何か「や」というのは「or」のような意味にもとれるのですが。

道徳教育の中に人権教育も含まれると思うのですね。あるいは、「や」ではなくて、「道徳・人権教育」とか、これはあまり格好よくないのですけれども。それともあまりこだわる必要もないのでしょうか。

学校教育部長 「・」ということに変更できるように検討を進めていきます。

埋橋部会長 ほかにご意見はございませんでしょうか。

藤本委員 この奈良市第4次総合計画の中で、重点戦略1という中で、一番大事なことになると思うのですけど、少子化対策。今国においても

大変な重要課題だと思います。

そういった意味で、この文章等々を読ませていただいたら、インパクトがないという気がします。第1回目に言わせていただいたとおり、もっと奈良市において、これだけは絶対頑張ってるんだというような目玉というのでしょうか、そういうものがない。それは私としては、やはり少子化対策になるのかなという気がしますけれども、どうでしょうか。

事務局

委員ご指摘の箇所は、総論のほうでございまして、今、後期基本計画の策定にあわせて見直しを行っております、小委員会のほうでご議論いただいているところでございます。

少子化対策については、ご指摘のとおり最重要の課題でございますので、後期におきましても、「子どもの夢・未来戦略」ということで、重点戦略の組みかえを行う中で、少子化対策をメインにした重点戦略を後期のほうでも掲げているところでございます。

埋橋部会長

ほかにご意見等はございませんでしょうか。

佐久間委員

ただいまの説明にありましたけれども、重点戦略のそれぞれの1、2、3の名称も変わっているということですよ。

事務局

そうですね。

佐久間委員

「子どもの夢・未来戦略」という、以前の少子化対策というより、もっと積極的な意味合いが感じられて、私はこれはいいなと思っています。単に単語を並べただけの印象ではなく、他の重点政策である「安心・健康長寿戦略」、「観光力アップ戦略」という名称になって、全てが前向きな、やるぞというような意欲を感じる名称に変わった印象を持っていました。

埋橋部会長

ありがとうございます。委員の皆様から非常にいろいろな角度からご意見を頂戴できたかと思います。これで本日の会議を終了させていただきたいと思っております。ありがとうございました。

資 料

【資料1】後期基本計画各論原案（施策別）

【資料2】総合計画審議会部会第2回会議での意見に対する対応状況